

シリーズ 福島市の縄文遺跡

第2回 上岡遺跡 (飯坂町)

福島市飯坂町東湯野にある縄文時代後期・晩期（約4000～2500年前頃）の遺跡です。発掘により、竪穴住居、木の実などの水さらし場と考えられる木組み遺構、漆塗りの土器、小型の土器、多数の土偶などが出土しています。

昭和27年に出土した「うずくまる土偶」は乳房や膨らむ腹部から妊娠した女性を表現しているものですが、立膝で座り、腕を組んだ珍しい形をしています。座った状態で出産している姿をモデルにしたとも言われ、安産の祈りがこめられています。



うずくまる土偶

高さ21cm。福島県重要文化財。
平成21年度には、和台遺跡の人体文土器とともにイギリスの大英博物館で展示されました。



遺跡
周辺地図



★★ 次回は、**仙台南前遺跡(松川町)**を紹介します。おたのしみに。★★

お知らせ



宮畑遺跡公開講座

「縄文時代の食と生活」をテーマとした講演会を開催します。また、体験学習施設の展示内容等についてお知らせします。

- 開催：平成23年2月19日（土）
- 場所：市民会館第2ホール
- 講師：岡村 道雄（宮畑遺跡整備指導委員会）
佐々木由香（櫛パレオラボ）

じょーもぴあ宮畑 サポートネットワーク ボランティア新規会員募集

支所・学習センター等に設置の申込書に必要事項を記入の上、お申込ください。
詳細は市政だより1月号をご覧ください。

- 締切：平成23年2月28日（月）
- 申込・問合せ：文化課 525-3785

編集後記

今年の夏は例年にない猛暑での熱中症、秋には熊の出没多発と新聞を賑わせました。宮畑遺跡では「じょーもぴあ宮畑まつり」が盛大に行われ、初めての一般公開で成果を収めましたが、会員にとっても非常に忙しい一年でした。
本号では今年一年間の活動状況を特集しましたが、来年も復元整備や施設の建設が行われる予定で、平成26年度オープンに向けて着々と準備が進んでいます。

史跡 宮畑遺跡



じょーもぴあ 宮畑 だより

第3号
平成22年12月

発行：じょーもぴあ宮畑サポートネットワーク
編集：公開・発信・活用協力会
ガイドワークショップ部会 編集班

事務局：福島市教育委員会 文化課
〒960-8601 福島市五老内町3番1号
☎024-535-1111 内線 5375・5376

★「じょーもぴあ」とは「縄文時代を身近に感じられるユートピアのような場所」の意味です

整備の様子をのぞいてみよう 第2回

直径90cmの柱を使った掘立柱建物が完成しました

じょーもぴあ宮畑だより第2号（8月発行）では工事途中だった、直径90cmの柱を使った巨大な掘立柱建物が完成しました。その復元工事の過程を紹介します。

- 6月28日 基礎部分の工事開始。
実際の遺跡の面に約1mの盛り土をし、縄文時代に建物があった場所の真上に復元建物を建てています。
- 7月8日 現地に材料を運び入れました。
太さ30cm以上の主要な柱材は11本ですが、短い木材を含めると約270本の木材が使用されています。【写真①】



【材料の加工】

直径90cm！
宮畑遺跡の
シンボル
「掘立柱」

- 7月21日 主要な柱が組みあがると、作業用の足場が組みられました。【写真③】



【作業足場の設置】



- 7月20日 直径90cmの柱の立ち上げ。
写真の3本の柱は5tの重さがありました。主要な柱の組み上げは大型のクレーン車を使って行われ、2日間で作業が終了しました。【写真②】

【柱の立ち上げの様子】

- 8月1日 屋根はカヤを使用しています。屋根ふきは、13日間行われ、大内宿の屋根をふいた会津の屋根ふき職人4名があたりました。【写真④】



【屋根ふきの様子】

- 10月28日 高さ7.3mの巨大な掘立柱建物が完成しました。この建物は縄文時代も遺跡の場所を示すシンボルだったと考えられています。【写真⑤】



【完成した掘立柱建物】

※掘立柱建物…地面に穴を掘りくぼめて、そのまま柱（掘立柱）を立てた建物です。性格は遺跡によって異なり、住居、倉庫、共同の作業場、物見やぐら、葬送儀礼、まつり等に使われた施設と考えられています。

特集 宮畑遺跡この一年

平成22年度は、宮畑遺跡に関連した様々なイベント、活動を開催しました。

活動紹介（第2回）

案内ガイドを行いました

公開・発信・活用協力会のガイドワークショップ部会では、6月から宮畑遺跡の特徴についての講座、現地での案内ガイド研修を行い、8月のじょーもぴあ宮畑まつりでは、大型の掘立柱建物の復元展示や子供のお墓の案内ガイドを実施しました。

【案内ガイドの研修】



8月、じょーもぴあ宮畑まつり直前のガイドの練習風景。解説パネルを用いて、発掘の様子や復元した建物を説明する練習をしました。

【まつり当日の様子】

「こちらは縄文時代のお墓で、埋蔵（うめがめ）といひます」



「ムラの中に子供のお墓があるんですか？ビックリしました」



当日は気温35度を超える炎天下となりましたが、約400名の見学者が復元展示を訪れ、案内ガイドを受けました。

今回が初めての案内ガイドの実施となりましたが、来場者には熱心に話をきいていただき、充実した経験ができました。

12都市が参加

縄文シティサミット inふくしま

8月21日(土)

全国16都市の縄文遺跡を有する自治体によって構成される縄文都市連絡協議会のサミットが初めて福島市で開催され、「ふるさと自慢としての縄文の魅力と観光・まちづくり」をテーマに、各都市の活用事例の発表・意見交換を行いました。

会場のこむこむは満席で、来場者は熱心に話に聴き入っていました。



▲【縄文シティサミット風景】
北は北海道洞爺湖町、南は鹿児島県霧島市まで12都市の代表が一堂に会しました。

▼【弓矢体験を楽しむ子ども達】



▲【山口笛太鼓愛好会の皆さん】



▲【東部・大波地区の皆さん】



▲【まつりの出店の様子】

▲【どんぐり入れ競争】

真夏の祭典

じょーもぴあ宮畑まつり 開催

8月22日(日)

当日は約2,000名の来場者があり、じょーもぴあ宮畑サポートネットワークの会員及び東部・大波地区の団体等により、復元展示の案内ガイド、縄文体験コーナー、夏まつりコーナー、朝市、物産販売など大人から子供まで楽しめるコーナーが設けられた、非常に賑わいのある縄文まつりとなりました。

体験型学習

縄文探検隊

市内の小中学生81名が探検隊として、6月から10月にかけて8回の活動を実施しました。中でも、遺跡探検の旅、縄文土器作り、勾玉作りは非常に好評を得ました。また、じょーもぴあ宮畑まつりではコーナーの運営にあたりました。

隊長の感想

一年間、隊長としてみんなの前であいさつをしたり、縄文時代のことを学んだりして、僕の一生の良い思い出になりました。縄文人の苦労があったからこそ、今の生活があるのだと思います。この一年、楽しい探検隊でした。



▲【縄文探検隊隊長】
央戸 心 くん

縄文探検隊隊長
福島第四小学校5年 央戸 心



▲【火おこし体験】



▲【集合写真】



▲【縄文土器の見学】



▲【土器の野焼き体験】

宮畑遺跡の発掘から整備まで

第2回「宮畑遺跡の試掘調査」

福島工業団地第6期造成工事にともない、宮畑遺跡では初めての発掘調査が平成6年に行われました。このとき実施した発掘調査は
①宮畑遺跡の範囲を明らかにすること。
②宮畑遺跡がどのくらいの深さのところに埋まっているか確認すること。
③いつの時代のどのような遺跡なのかを明らかにすること。

の3点を目的とした本調査に先立つ試掘調査（試し掘り）です。

試掘調査は、工業団地で造成が行われる範囲全体に、トレンチと呼ばれる2m幅の調査用の溝を45本掘りました。トレンチは東西・南北に格子目状に掘られ、総延長は3kmを超えました。

この調査によって、遺跡は当初の予想をはるかに超えた大規模な遺跡であること、縄文時代中期から晩期までの人々の生活の痕跡が残っていること、膨大な量の縄文土器や石器が埋まったままになっていることなどが明らかになりました。さらに、遺跡内には平安時代の集落も存在することも判明しました。



▲ 試掘調査のトレンチ

トレンチ…調査のために掘られる細長い溝のことで、試掘調査などで遺跡を部分的に発掘するときに用いられる掘り方です。宮畑遺跡は範囲が広いので全長200mをこえるトレンチもありました。